

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会  
言語能力の向上に関する特別チーム（第 2 回）議事次第

1. 日 時 平成 27 年 12 月 18 日（金） 10 : 00 ~ 12 : 00
2. 場 所 文部科学省 東館 3 階 3 F 2 特別会議室
3. 議 題 (1) 国語科及び外国語科・外国語活動を通じた言語能力の育成について  
(2) その他

4. 配付資料

- 資料 1 言語能力の向上に関する特別チーム（第 1 回）における主な意見  
資料 2 言語能力の向上に関する特別チーム（第 2 回）における論点  
資料 3 言語に関する資質・能力（検討のたたき台）  
資料 4 言語に関する資質・能力の要素（言語に関する認知と思考のプロセスに着目して、主に知的活動の側面から整理したイメージ案）  
資料 5 言葉の働き（機能）と仕組みについて

- 参考資料 1 言語能力に関するこれまでの議論について  
参考資料 2 「思考力・判断力・表現力等」についての整理のイメージ  
参考資料 3 現行の学習指導要領における言葉の特徴やきまりに関する知識・技能についての主な記載（抜粋）

5. 机上参考資料（冊子）

- ・ 現行学習指導要領等のポイント
- ・ 教育振興基本計画（平成 25 年 6 月 14 日）
- ・ 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校学習指導要領
- ・ 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」（平成 20 年 1 月 17 日中央教育審議会）
- ・ 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成 22 年 3 月 24 日）
- ・ 「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」（22 文科初第 1 号 平成 22 年 5 月 11 日）

- ・国語科における目標、指導内容等
- ・「外国語」等における小・中・高等学校を通じた国の指標形式の目標（イメージ）  
たたき台
- ・小学校学習指導要領解説 国語編、外国語活動編
- ・中学校学習指導要領解説 国語編、外国語編
- ・高等学校学習指導要領解説 国語編、外国語編・英語編

## 6. 机上参考資料（タブレット端末）

- ・幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）（平成 22 年 11 月 11 日）
- ・中央教育審議会初等中等教育分科会「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」（平成 24 年 7 月 23 日）
- ・中央教育審議会「子供の発達や学習者の意欲・能力等に応じた柔軟かつ効果的な教育システムの構築について（答申）」（平成 26 年 12 月 22 日）
- ・中央教育審議会初等中等教育分科会高等学校教育部会「審議まとめ～高校教育の質の確保・向上に向けて～」（平成 26 年 6 月 30 日）
- ・中央教育審議会「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について（答申）」（平成 26 年 12 月 22 日）
- ・高大接続システム改革会議「中間まとめ」（平成 27 年 9 月 15 日）
- ・中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について（中間まとめ）」（平成 27 年 7 月 16 日）
- ・中央教育審議会初等中等教育分科会チームとしての学校・教職員の在り方に関する作業部会「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（中間まとめ）」（平成 27 年 7 月 16 日）
- ・平成 25 年度教育課程の編成・実施状況調査
- ・言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】【中学校版】【高等学校版】
- ・中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会 言語能力の向上に関する特別チーム（第 1 回配布資料）
- ・中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会 国語ワーキンググループ（第 1 回配布資料）（第 2 回配布資料）
- ・中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会 外国語ワーキンググループ（第 1 回配布資料）（第 2 回配布資料）（第 3 回配布資料）

## 言語能力の向上に関する特別チーム（第2回）における論点

### 論点1

- ・言語に関する資質・能力を三つの柱で整理した資料3について、  
①個別の知識・技能、②思考力・判断力・表現力等、③学びに向かう力、人間性等のそれぞれの整理は適切か。
- ・特に②について、「知的活動（論理的思考とそれに支えられた創造的思考等）」「感性・情緒」「コミュニケーション」のバランスは妥当か。

### 論点2

- ・資料3の整理を前提に、言語に関する資質・能力を言語に関する認知と思考のプロセスに着目して要素を整理した資料4について、「テキスト・情報の理解」、「文字や音声による表現」のそれぞれの基本的な流れや要素は適切か。
- ・また、「知的活動（論理的思考とそれに支えられた創造的思考等）」のみならず、「感性・情緒」、「コミュニケーション」の資料4における位置付けは十分か。

### 論点3

- ・資料4の言語に関する資質・能力の要素について、特に発達段階を考慮した場合に、どのような点に違いが出ると考えられるか。

### 論点4

- ・資料5を踏まえ、言葉の働き（機能）や言葉の仕組みに関する気付きの観点など、言語能力を向上させるために「国語科」と「外国語科・外国語活動」双方の学習が効果的と考えられる点は何か。
- ・また、これ以外の教科等との関わりについてどう考えるか。

# 言語に関する資質・能力（検討のたたき台）

平成27年12月18日  
 教育課程部会  
 言語能力の向上に関する特別チーム  
 資料3

## 個別の知識や技能 （何を知っているか、何ができるか）

## 思考力・判断力・表現力等 教科等の本質に根ざした見方や考え方や （知っていること・できることをどう使うか）

## 学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの （どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか）

### ○言葉の特徴やきまりに関する知識・技能

- ・言葉の働き、役割
- ・文字や符号（平仮名、片仮名、漢字、ローマ字、アルファベット、句読点、かぎ（「」）、終止符、疑問符、コンマ、引用符、感嘆符等）
- ・音声（アクセント、発音、イントネーション、区切り等）
- ・語の意味、慣用表現
- ・語彙
- ・文の構成、文法  
 （主語と述語、修飾と被修飾の関係、指示語や接続詞、単語の活用など）
- ・文章の構成や組み立て
- ・表現の技法や工夫

### 【知的活動（論理的思考とそれに支えられた創造的思考等）の側面】

- 以下の力を総合的に働かせて、構造と内容を把握する力
  - ・書き手や話し手の意図や立場を理解する力
  - ・場面や文脈を理解する力      ・次の展開を予測する力
  - ・事実と意見を区別する力
  - ・文と文の関係や文章全体の構成を理解する力
  - ・書かれて（話されて）いる情報と情報の関係を理解する力
  - ・既有知識に基づいて、情報を補足・精緻化する力      など
- 構造と内容の把握によって獲得した新しい情報を、既に持っている知識や経験・感情に統合し、全体として首尾一貫した意味内容を再構築・構造化する力（解釈・考えを形成する力）
- 以下の力を総合的に働かせて、表現（推敲）する力
  - ・命題を設定し、伝える情報を取捨選択・構造化し、内容・構成・表現を検討する力
  - ・読み手や聞き手を意識・想像する力      ・場面を理解する力
  - ・自分の意図や立場を明示する力      ・事実と意見を区別する力
  - ・文と文の関係や文章全体の構成を明確にする力
  - ・書く（話す）情報と情報の関係を明確にする力      など

### 【感性・情緒の側面】

- ・相手や作品の中の人物等の思いや感情、作品の内容・表現などを  
 感じ取ったり、感動したりする力
- ・言葉から事柄などを推し量り、自由にイメージを思い描く力
- ・言葉によって思いや感情を意識化し、感性をより高めたり、感情の  
 表出をコントロールしたりする力      など

### 【コミュニケーションの側面】

- ・知的活動や感性・情緒に支えられたコミュニケーションする力
- ・読み手や聞き手を意識・想像する力
- ・相手に配慮した表現をする力      ・相手の視点を考慮して展開する力
- ・伝え合うことで自分の考えを広げたり深めたりしたり、協働して考え  
 を形成したりする力      など

- ・言葉を通じて、自分のものの見方、考え方を深めようとするとともに、考えを伝え合うことで、集団の考えを発展させようとする態度

- ・様々な事象に触れたり体験したりして感じたことを言葉にするとともに、それらの言葉を互いに交流させることを通じて、心を豊かにしようとする態度

- ・言葉を通じて積極的に人や社会と関わり、自己を表現し、他者を理解するなど互いの存在についての理解を深め、尊重しようとする態度

- ・言語文化に対する関心

# 言語に関する資質・能力の要素

(言語に関する認知と思考のプロセスに着目して、主に知的活動の側面から整理したイメージ案)

## 認知と思考のプロセス

テキスト・情報の理解

- ことばの特徴やきまりに関する知識・技能の活用
  - 書き手、話し手の意図や立場の理解
  - 場面、文脈の理解
  - 照応処理（指示語の特定等）
  - 事実と意見の区別
  - 文と文の関係や文章全体の構成の理解
  - 情報と情報の関係の理解（原因－結果、判断－根拠、問題－解決、定義－例示など）
  - 既有知識に基づく補足や精緻化
- 言語感覚による捉え  
次の展開を予測  
感情の読み取り
- など

構造と内容の把握

- 新しい情報を、既に持っている知識や経験・感情に統合
- 全体として首尾一貫した意味内容を再構築・構造化

解釈・考えの形成

メタ認知した知識も含む

獲得した知識を活用して次の理解へ

形成した考えを活用して次の表現へ

文字や音声による表現

命題の設定

伝える情報の取捨選択、構造化

内容・構成・表現の検討

表現

- ことばの特徴やきまりに関する知識・技能の活用
  - 読み手や聞き手への意識・想像
  - 場面の理解
  - 自分の意図や立場の明示
  - 文と文の関係や文章全体の構成の明確化
  - 情報と情報の関係の明確化（原因－結果、判断－根拠、問題－解決、定義－例示など）
- 思いや感情の意識化  
言語感覚による判断  
事実と意見の区別
- など

- 推敲【文章表現】
- 誤字や言い回しの修正
  - 内容や文章の再評価

- 状況に応じた調整【音声表現】
- 相手に配慮した表現
  - 相手の視点を考慮した展開

獲得した知識、形成した考えを活用して、次の理解や表現へ

## 考えの形成